

事業進捗状況報告について

1 事業進捗状況報告

これまでから総合事業等審査会では審査を行った事業について、審査意見の反映状況等を確認するため、事業進捗状況報告を実施している。

2 今回の事業進捗状況報告

次の事業について、進捗状況の報告を行う。

○ 兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院の統合再編（仮称）整備事業（令和元年度審査事業）
【所管部局：病院局】

(1) 整備目的

「兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院の統合再編基本計画」に基づき、これまでの診療機能を維持・充実するとともに、地域医療に関わる人材育成の拠点病院としての役割を果たし、西宮市域及び阪神圏域において安定的・継続的に医療を提供するため、兵庫県と西宮市が連携して、両病院の統合再編による新病院を整備。

(2) 整備概要

① 整備場所 西宮市津門大塚町1番（アサヒビール工場跡地）

② 施設規模 敷地面積 約 26,000 m²

病院棟 免震構造 地上 11 階 塔屋 1 階 延床面積 54,555 m²

放射線治療棟 耐震構造 地上 3 階 延床面積 1,228 m²

(3) 事業費 約 412 億円

(4) 整備スケジュール

- ・ 令和 2 年度～令和 4 年度 基本設計、実施設計
- ・ 令和 4 年度～令和 7 年度 建設工事
- ・ 令和 7 年度 開院

【令和元年度総合事業等審査会における審査結果】

県立西宮病院は、阪神医療圏域の中核病院として、3次救急や周産期、がん治療、腎移植等の高度先進医療を、西宮市立中央病院は2次救急やがんの集学的治療を提供してきた。

しかし、県立西宮病院の敷地は狭隘であり、今後の医療環境の変化に対応する大規模改修や増築等が行えないほか、救命救急センターが地下にあり、ヘリポートが未設置であるなど、防災面での課題がある。また、西宮市立中央病院は平成 29 年度に耐震改修を行ったものの、築後 40 年が経過しており、建物の老朽化対策や長寿命化対策には限界があるため、早期の建物整備を行う必要がある。

こうしたなか、両病院の機能を統合再編して新病院を整備することで、診療機能の集約化を図り、限られた医療資源の有効活用や医療人材の確保に期待ができるほか、診療機能の回復・向上と、それに伴う患者数の増加による経営の改善が見込まれる。さらに、ヘリポートの整備、免震構造の採用等の災害に強い病院を整備することで、大規模災害時における医療提供スペースや備蓄スペースの確保など、災害拠点病院として引き続き災害医療派遣チーム(DMAT)等の災害医療体制が整備され、高度医療の提供が可能になることが見込まれる。

以上のことから、当事業の推進は妥当とする。なお、事業推進にあたっては、次の点に留意すること。

① 今後必要となる医療機器等の精査を行い、現有機器等を最大限活用することで、医療機器等整備費の節減に努めること。また、今後医療機器等の高度化が想定されることから、追加投資が必要な場合には、適宜適切に収支計画を見直す等、健全な病院経営に努めること。

② 西宮市と綿密に連携を図りつつ、速やかに工事を推進し、早期の施設整備に努めること。

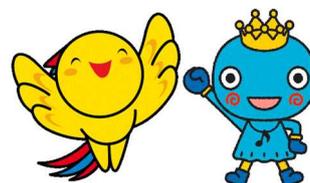
総合事業等審査会審査結果への対応状況等一覧 (令和元年度審査事業)

| 事業名 (審査日) | 審査結果 | 審査結果への対応状況等 | |
|---|---|--|---|
| | | 審査時点での事業計画内容 | 実施段階での事業内容 |
| 兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院の統合再編(仮称)整備事業(R2.1.28) | <p>県立西宮病院は、阪神医療圏域の中核病院として、3次救急や周産期、がん治療、腎移植等の高度先進医療を、西宮市立中央病院は2次救急やがんの集学的治療を提供してきた。しかし、県立西宮病院の敷地は狭隘であり、今後の医療環境の変化に対応する大規模改修や増築等が行えないほか、救命救急センターが地下にあり、ヘリポートが未設置であるなど、防災面での課題がある。また、西宮市立中央病院は平成29年度に耐震改修を行ったものの、築後40年が経過しており、建物の老朽化対策や長寿命化対策には限界があるため、早期の建物整備を行う必要がある。</p> <p>こうしたなか、両病院の機能を統合再編して新病院を整備することで、診療機能の集約化を図り、限られた医療資源の有効活用や医療人材の確保に期待ができるほか、診療機能の回復・向上と、それに伴う患者数の増加による経営の改善が見込まれる。さらに、ヘリポートの整備、免震構造の採用等の災害に強い病院を整備することで、大規模災害時における医療提供スペースや備蓄スペースの確保など、災害拠点病院として引き続き災害医療派遣チーム(DMAT)等の災害医療体制が整備され、高度医療の提供が可能になることが見込まれる。</p> <p>以上のことから、当事業の推進は妥当とする。なお、事業推進にあたっては、次の点に留意すること。</p> | <p>① 必要な医療機器について、費用対効果・業務効率化等の観点から最適な整備内容・調達方法を検討する。 現在両病院が保有している医療機器の機能・性能や使用状況等を考慮し、継続的使用が可能な医療機器については、統合再編新病院での活用を図る。</p> <p>② 西宮市と連携し施設整備を円滑に進めるとともに、新病院の設計においてプロポーザル方式をとり、宮水保全条例を前提に工期短縮するノウハウや建築手法の提案を求め、可能な限り工期の短縮、早期の施設整備に努める。</p> | <p>① ア 必要な医療機器の精査・安価な調達等のための事業者選定及び検討体制の立ち上げ ・令和2年度、必要な医療機器の精査・安価な調達方法など、両病院の支援を行う事業者(以下「コンサル」)をプロポーザル方式により選定。 ・県市両病院幹部等で、新病院の建築・医療機器等の整備方針を決定する統合推進本部会議、医療機器選定や運用等を検討するワーキング(以下、「WG」)を組織。</p> <p>イ 現有機器の調査と新規購入機器の精査 ・令和2～3年度、①コンサルにより現在病院が保有する医療機器、機器の耐用年数等を調査、②WGで継続使用機器、新規購入機器の候補を検討。 ・今年度以降、コンサル・WGと連携し、費用対効果・業務効率化の観点で新規購入機器の台数や機能を精査するとともに、安価な調達方法を検討。 ・現病院稼働中に、更新が必要な医療機器については、現病院での医療提供体制や新病院での継続使用を念頭に、更新台数や機能を精査。</p> <p>② ア 西宮市との連携 ・令和2年度以降、整備地における西宮市の地区計画等を踏まえ、新病院の景観・土地の開発や建築の許認可について、市の担当課と随時相談しながら行政手続を推進。 ・市条例に基づく宮水(酒造用地下水)の保全対策についても、西宮市と連携し、西宮市役所第2庁舎などの整備事例のノウハウを参考に、関係団体と協議し設計へ反映。 ・令和3年度、西宮市と共同で新病院基本設計の公表、病院整備に係る住民説明会を実施。 ・令和4年度、新病院建築の許認可を受け、工事公告予定。 ・新病院敷地内に設置される西宮市消防局の研修施設(救急WS)や、阪神国道駅側敷地の西宮市都市公園についても、担当課と連携し一体整備(令和7年度供用予定)。</p> <p>イ 設計業者の選定と工期の短縮・早期の施設整備 ・令和2年度、新病院の設計業者の選定にあたって、宮水保全のため地下工事の制限がある前提で工期を短縮するノウハウなどを提案項目に加え、プロポーザルを実施。 ・設計業者から提案のあった、①宮水への影響を考慮した建物基礎、②建設工事をスムーズに進めることのできる敷地内の建物配置を新病院の設計へ反映。 ・令和4年度、新病院の建設業者を決定・工事着工予定。以降、効率的に建設工事を進めることができるよう建設業者と調整し、工期の短縮・早期の施設整備に取り組む。</p> |

| 記者発表（資料配布） | | | | |
|--------------|--------|-------------------------|-------------------------------|---------------|
| 月／日 （曜日） | 担当課 | 電 話 （内 線） | 発表者名 （担当係長名） | その他 配布機関 |
| 11／19 （金） | 病院局企画課 | (078)362-3223 (3495) | 企画課長 三宅 隆之 （病院整備班主幹 稲岡 和樹） | 阪神南 県民センター |

西宮総合医療センター（仮称）及び関連施設の基本設計概要

「兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院の統合再編基本計画」に基づき、これまでの診療機能を維持・充実するとともに、地域医療に関わる人材育成の拠点病院としての役割を果たし、西宮市域及び阪神圏域において安定的・継続的に医療を提供するため、兵庫県と西宮市が連携して、両病院の統合再編による新病院を整備します。



1 新病院の基本方針

- ・高度急性期・急性期医療の提供
- ・救命救急センターとしての役割
- ・先進医療への対応
- ・感染症対応機能の充実・強化
- ・AI・ICTの活用
- ・医療従事者の育成拠点
- ・災害に強い病院
- ・安定した経営基盤の確立



※新病院完成予想図（国道2号からのイメージ）

2 新病院の規模

- （1）診療科目 35 診療科
- （2）病床数 552 床（一般病床 544 床、精神病床 8 床）

3 施設計画

- （1）建設場所 西宮市津門大塚町
（敷地面積 26,000 m²）

- （2）構造規模等（予定）

① 病院棟

- ・鉄骨造（免震構造）
- ・地上 11 階、塔屋 1 階
- ・延床面積 54,555 m²
- ・高さ 53.5m

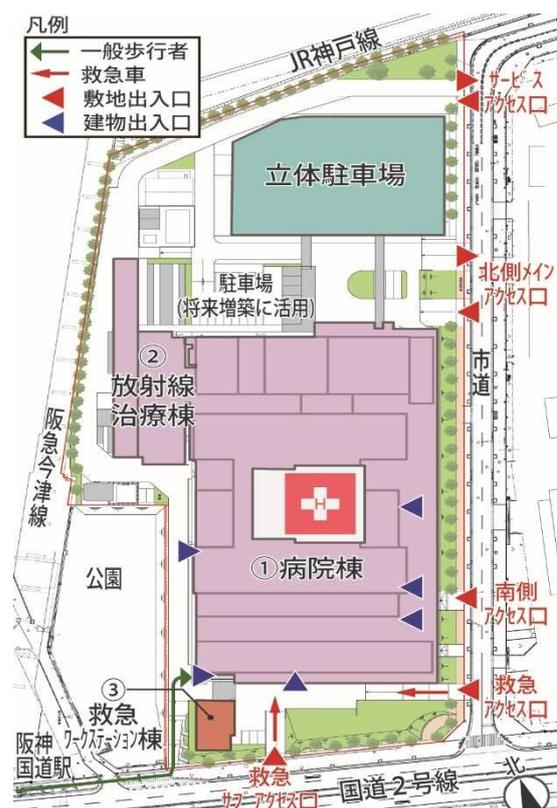
② 放射線治療棟

- ・鉄筋コンクリート造（耐震構造）
- ・地上 3 階
- ・延床面積 1,228 m²
- ・高さ 14.7m

③ 救急ワークステーション棟

- ・鉄骨造（耐震構造）
- ・地上 2 階
- ・延床面積 382 m²
- ・高さ 9.6m

※ 立体駐車場棟は、公募により選定された民間事業者が自らの資金で整備（基本設計中）



4 概算事業費

386億円※（建設工事費247億円、医療機器整備費70億円、用地費55億円、設計監理費14億円）

※別途、建設資材等の価格上昇、宮水保全対策、感染症対応機能の充実、地中障害物対策工事等の追加対策経費が必要。

5 設計上の主な特徴

（1）医療ニーズへの対応

- ① 高度急性期医療エリアの強化に向け、救急部門、手術部門、ICU、ヘリポートを、エレベーターにより迅速連携できるよう配置
- ② 医療環境の変化に対応するため、増築スペースを各所に確保するとともに、将来の柔軟な改修を可能とする建築設計を採用

（2）感染症対応機能の充実

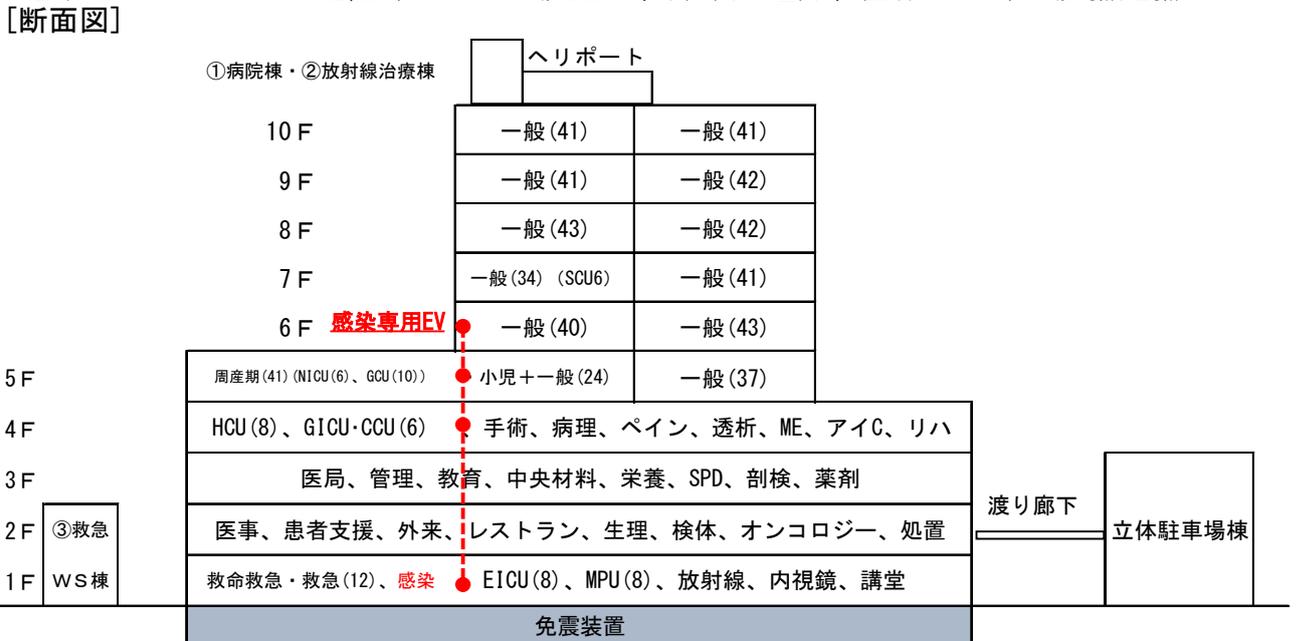
- ① 平常時は一般患者に対応しつつ、感染症流行時は感染症患者の受入れが可能となるよう、専用の入口・エレベーターや陰圧設備を配した専用診察室・病室等を整備
- ② 感染拡大のフェーズに応じた病床拡大を可能とするゾーニングと空調設備計画（休止病床の抑制による感染対応と通常医療の併存を可能とする計画）

（3）地域における医療従事者の育成拠点づくり

- ① スタッフのための学びの場（カンファレンススペース）を各階に配置
- ② 多職種が利用できる広いスタッフステーションを実現

（4）災害への対応

- ① 免震構造の採用（地震対策）、敷地嵩上げ・重要施設の上階設置（浸水対策）等により災害時においても医療機能を維持
- ② 地震や大事故といった広域災害が発生した際に、様々な傷病者の受け入れを可能とするトリアージや処置等のエリア設定や、非常用電源、医療ガス等の設備配備



6 整備スケジュール

| 年度 | 2020 (R2) | 2021 (R3) | 2022 (R4) | 2023 (R5) | 2024 (R6) | 2025 (R7) | |
|--------|--------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----|
| 建物整備 | | 基本設計 | 実施設計 | 入札公告 | 建設工事 | | |
| 医療機器整備 | 医療機器選定、情報システム設計、発注 | | | | | 開院準備 | ●開院 |

県立病院の建替整備の状況について

| 年 月 | 概 要 |
|---------|---|
| H21. 11 | 加古川医療センター開設（加古川病院を改称・移転） 整備場所：加古川市神野町 病 床 数：3 5 3 床 |
| H25. 5 | 淡路医療センター開設（淡路病院を改称・移転） 整備場所：洲本市塩屋町 病 床 数：4 4 1 床 |
| H27. 7 | 尼崎総合医療センター開設（尼崎病院と塚口病院を再編） 整備場所：尼崎市東難波町 病 床 数：7 3 0 床 |
| H28. 5 | こども病院移転・開設 整備場所：神戸市中央区港島南町 病 床 数：2 9 0 床 |
| H29. 4 | 粒子線医療センター附属神戸陽子線センター開設 整備場所：神戸市中央区港島南町 |
| R 1. 7 | 丹波医療センター開設（柏原病院と柏原赤十字病院を再編） 整備場所：丹波市氷上町石生 病 床 数：3 2 0 床 |
| R 4. 5 | はりま姫路総合医療センター開設（姫路循環器病センターと製鉄記念広畑病院を再編） 整備場所：姫路市神屋町 病 床 数：7 3 6 床 |
| R 7年度予定 | 西宮総合医療センター（仮称）開設（西宮病院と西宮市立中央病院を再編） 整備場所：西宮市津門大塚町 病 床 数：5 5 2 床 |
| R 7年度予定 | がんセンター開設（現地建替） 整備場所：明石市北王子町 病 床 数：3 6 0 床 |